

NO.34 令和元年 11 月

発行：三重耳鼻咽喉科

津市観音寺町 445-15

Tel:059-228-0100 Fax:059-228-0133

ホームページ：<http://www.mieibika.com/>

## ＜補聴器について＞

先日、補聴器相談医の講習会に参加してきました。そこで得た情報を共有させて頂きたいと思います。

日本では、自分で難聴と感じている人が人口の11%ほどで、そのうち補聴器を持っている方が14%ほど、つまり人口の1.6%ほどだそうです。しかも、難聴を自覚してから補聴器を使用するまでに、6割の方が3年かかっているそうです。聞こえにくい不自由さを感じながらも、「補聴器」というものに対して抵抗感を感じる方が多い印象があります。しかしながら、実際に補聴器を使用すると、54%の方が「もっと早く購入すれば良かった」と感じており、89%の方が「生活の質（QOL）が改善した」と感じているようで、使用してみるとその良さを実感して頂けるようです。

補聴器を購入する前に、まずは耳に耳垢が溜まっていないか、耳の道（外耳道）に病気がないか、鼓膜は正常かなどの診察が必要です。また、今の聴力がどのくらいあるかを測定する必要があります。これは耳鼻科での診察で行います。聴力の程度と、その方が今

の聞こえの状態与生活にどの程度支障があるかにより、補聴器が必要かどうかが決まってきます。

補聴器が必要な状態である場合、補聴器専門業者への紹介をします。補聴器を販売しているところは、今の時代たくさんあります。例えばテレビ通販やインターネッ

ト、電気屋さんやメガネ屋さんなどでも販売されていますが、実はこうしたところでの購入はお勧めできません。補聴器は非常に精巧に出来た医療機器です。その人の聴力に合わせて出力を合わせ（フィッティングといいます）、より快適に聞こえるようにするための調整は、簡単にできるものではなく、ましてや既製品を付けたら聞こえるというものではありません。厚生省は基本的に、「認定補聴器技能者（全国に4000名弱）」という専門の資格を持った販売者が常在し、なおかつ設備が十分で、補聴器相談医と連携を持っている「認定補聴器専門店（約800店舗）」での購入を勧めています。また、補聴器相談医がこうした認定補聴器専門店の認定補聴器技能者宛に紹介状を作成することで、補聴器を購入された場合、「医療費控除」の対象となります（2018年より）。尚、身体障害者に相当する難聴の方の場合は、併せて身体障害等級申請や補装具申請をする事により、行政から収入に応じた補助が受けられます。

補聴器を作ることになったら、紹介先の補聴器店でまずは「試聴」といって、借りた補聴器で生活をしてみます。この際、なるべく「一日中着ける」ようにしてください。始めは、周囲の音がうるさく聞こえたり、耳障りな感じがします。特に食器の音やレジ袋の音などの高めの音、車の走る音などの低い音が不快に感じます。しかしこれは、本来いつも周囲で鳴っていた音であり、難聴者はそれ



まで聞こえにくいために感じていなかった音です。脳は聞こえない世界に慣れてしまっているため、突然補聴器を通して周囲の環境音が聞こえてくると「うるさい」と感じてしまうのです。しかし、一番聞きたい「会話の声」を聞こうとするならば、こうした環境音に慣れないといけません。始めの1週間から1ヶ月くらいはとても大変ですが、そこを乗り越えればだんだん慣れて聞こえやすいと感じるようになります。とにかく始めから「一日中着ける」ことを諦めず、3ヶ月を目標に頑張ります。その間、補聴器店で微調整を繰り返して頂き、より聞こえやすいように設定してもらいます。必ずや「無くてはならない補聴器」となり、生活の質が向上するはずで  
す。もし満足のいかない場合は医師にご相談ください。補聴器店に調整内容を確認し、依頼させていただきます。

#### <気道異物啓発 子育て支援センターへ>

以前から活動している「気道異物事故予防」の啓発ですが、この度、子育て支援センターでも活動させて頂くことになりました。

気道異物事故というのは、食べ物などの固形物が、息の通り道に詰まってしまうことで、小さな子どもや高齢者の方に起こりやすい事故です。特に4歳以下の乳幼児の場合は、食べ物による窒息事故が多く、死亡例も他の年齢層に比べてかなり高いです。このため、10年ほど前より県内の幼稚園を対象に、園の先生方や保護者の方々に啓発講演を行ってきました。院内にも置いてあります「つぶっこちゃん」という絵本も、啓発活動の一環で作成したものです。

幼稚園の子どもたちは、このつぶっこちゃんも読めて、自分で自分を守れるくらいに事故のことを理解できます。逆に先生や親に「こんな食べ物は危ないよ」とか「ミニトマトはきちんと切っ  
ね」など、事故予防のアドバイスをしてくれることもあるようで、



絵本で啓発をすることに効果を感じています。一方で、本の読めない・聞いてもまだ分からない年齢である0~2歳の子どもたちに起こりやすい事故であることも確か  
で、この年齢層の事故予防のためには、やはり周囲の大人に啓発をする必要があります。子育て中のお父さん、お母さん、またそのお手伝いをしてくださ

るおじいさん、おばあさんたちです。そうした方々に直接お話を聞いて頂き、事故のことを知って頂く機会を得るため、就園前のお子さん方が利用されることの多い「子育て支援センター」にアプローチをすることにしました。日常の子育てで迷ったり悩んだりするときに、同じように子育てをしているママさん達と話題を共有したり、センターに常在する支援員（元幼稚園・保育園の園長先生方がいらっ  
しゃいます）さんに相談をしたりする場で、一緒に子どもを遊ばせたり、食事を摂ったり、イベントに参加したり、勉強したりすることができます。

津市内にはいくつかの子育て支援センターがありますが、その中で日程的にお邪魔できる場所を選んで12月、1月に短い講演をさせて頂  
きます。気道異物のことを知っておきたいなあと思われる方は、イベントついでにいらしてくださいね！

- 令和元年12月19日（木） 「かるがも」たるみ子育て交流館
- 令和2年1月23日（木） 「わくわくランド」サンヒルズ安濃